

移住者が語る

松阪の魅力と課題

■216■

平野さんは大阪市出身。小学1年からサッカーをし、社会人になってからも、「アルテリウオ和歌山」「サウルコス福井」「アミティエ京都」などで選手として活躍してきた。「FC、ISEISHIMA」のセレクションを受けて、「チームの本気が伝わった」

大阪、名古屋行きやすい

サポートありがたい

ひらの 平野 だい き 大輝 さん(29)

松阪市久保町在住、大阪市出身、移住半年、会社員



地域のサポートに感謝しながらサッカーに励む平野さん
＝山下町で

と移籍を決意。今年3月に移籍とともに松阪市へ。食品小売り会社に勤めながら練習に励む。松阪のイメージは「松阪牛」だった。田舎のイ

メージもあったが、松阪を初めて訪れたとき、「予想以上に何でもあるな」と思ったとか。スーパーなども多く不便はない。自然もたくさんあり、「のどかな

と感じる。また天気の良い日が多いこともうれしい。仕事で地域の人と関わる機会が多いというが、松阪の人たちは「みんな気軽に話し掛けてくれる」という。一人暮らしで自炊をしているが、地域の人がいろんな食べ物をくれたり、栄養のあるものを教えてくれるな

どをサポートもあり「ありがたい」。驚いたのは、町で見掛ける外国人が多いこと。あと、大阪から松阪は遠いイメージがあったというが、来てみると思っていた以上に近く、名古屋にも行きやすいという立地の良さ。山下町の総合運動公園などサッカーをする環境もあり、「良い所」と感じる。

FC、ISEISHIMAは「監督や総監督たちが一人一人に目を向けて指導してくれる。来て一番良かったチーム」という。チーム自体、地域の人たちに認知されてきていると感じ、「期待を背負っている感じ」とも。「もっとたくさん試合を見に来てほしい。そのためには見えていて面白いと思ってもらえる試合をしたい。練習から一つ一つしっかりしていく」とサポートしてくれる人たちに感謝の気持ちを持ちながら、日々成長していきたいと思っている。